



人のためにできることを考える力

副校長 須山 健太郎

梅雨の気配を感じる季節となりました。先日、5年生の上郷宿泊体験学習に引率として同行してまいりました。今年度は行き先を変更し活動内容も見直したことで、社会科の水産業の学習や今後の学校行事へとつながる新たな学びの機会をつくることができました。子どもたちにとって、教室では得られない貴重な経験になったことと思います。

宿泊先の上郷森の家では、館長さんから「ルールやきまりを守ると、誰かが幸せになる」というお話をうかがいました。シーツや布団カバーを丁寧にたたむことがリネン業者の方の負担を減らし、室内をきれいに使うことが清掃スタッフの喜びにつながる。また、食堂での片付けやテーブル拭きが、次に使う人や働く方々の心地よさを生むというお話でした。



子どもたちは、その言葉を受け止め、一つ一つの行動を意識して取り組んでいました。叱られないためにルールやきまりを守るのではなく、自分の行動が誰かの役に立っていることを実感しながら過ごす姿が見られました。これは、社会の一員として生きていく上で非常に大切な学びであると感じます。

学校生活においても、相手を思いやり、周囲の人のために行動する場面は多くあります。今回の体験を通して得た気づきを今後の生活に生かし、よりよい学校づくりにつなげていけるよう、引き続き支援してまいります。ご家庭や地域におかれましても、子どもたちの小さな成長に温かい声掛けをいただければ幸いです。